

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 東浦町立緒川小学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒470-2102

愛知県知多郡東浦町大字緒川字八幡7番地

E-mail hogashot@higashiura.ed.jp

Website http://www10.schoolweb.ne.jp/weblog/index.php?id=2310247

幼児児童生徒数 男子 254名 女子 278名 合計 532名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

## 3. 活動内容

### (1) 活動の概要

本校は、昭和53年にオープンスクールとして生まれ変わって以来、「指導の個別化・学習の個性化」の研究・実践を推進してきた。そして、平成22年からはESDに注目し、総合学習「生きる」をESDの視点で見直し、①「自然とのつながり」②「社会とのつながり」③「人とのつながり」の3つに整理し、全学年での取り組みをつづけている。また、総合学習だけでなく教科学習においても実践の質のさらなる改善を図ることを目指している。

#### ① 「自然とのつながり」に係わる活動

1年 テーマ「がんばるちからをもらった やさしさあふれる ふわふわナンバー1のくに」

季節の移り変わり着目し、体験を通して四季の特徴を学ぶ活動をしてきた。春の校庭の草花のスケッチや、夏の水遊び、秋の木の実を収集して作品を作ったり、冬に雪遊びをしたりしてきた。また、「ともだちの木」として、一年を通じて観察を続ける木を決めて、その変化を感じとってきた。1月には、樹木医を招き、観察してきた木に関する質問などに答えていただき、大切な自然を守ろうとする気付きを生む活動ができた。

#### ② 「社会とのつながり」に係わる活動

2年 テーマ「やさいでげんき お川の町のたんけんたん」

校区内の身近な施設（役場・郵便局・人形店・写真館など）の中から、子ども一人一人の思いを大切に、学年を解体したグループを作り、施設見学を行った。インタビュー活動では、働き手の地域やお客に対する思いを学ぶことができた。見学したことを基に、ポスターセッションを行い、伝え合う活動をしたり、緒川かるたを作って実際に遊んでみたりした。身近な地域や人に関心をもち、愛着をもたせることのできる活動となった。

### ③ 「人とのつながり」に係わる活動

6年 テーマ「つながろう世界へ 羽ばたこう未来へ」

世界についての考えを広げ、一人一人興味のある国について主にインターネットを使った学習を進めた。ポートフォリオや新聞の形式など、各自が選んだまとめ方での発表形式をとり、友達の発表について付箋紙にコメントを書いて貼り、考えの交流を行った。学習の成果を表現する場の一つとしてアートマイル事業への参加を行った。インドネシアの学校と共同制作を行うために電子メールを用いて交流し、文化や習慣を伝えあった。互いのよさを認め合う作品を創ることができた。



①の写真（樹木医を招いて）



②の写真（町探検発表会）



③の写真（アートマイル作品）

## （2）活動の詳細

### ① 活動内容

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
---	--

<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入	)

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述	)

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

4年「地球教室 基礎編」（朝日新聞, 2016）  
 4年「地球教室 応用・研究編」（朝日新聞, 2016）  
 4年「共に生きる」「思い出してごらん」（愛知県社会福祉協議会）  
 6年 Weblio ウェブページ翻訳

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

「自然・社会・人」の3つの研究対象を設定し、子どもと各対象との間にある課題を自分事として捉え、よりよい未来の創造のために行動に移す力を身につけることを目標としている。そのために、子どもの生活をベースとした要求や思考の流れを受け止め、合科的、関連的に指導する横断的学習を年間計画の中に編成し、位置づけてきた。また、ESDカレンダーをつくり、総合学習「生きる」と教科学習との関連を明確にした。そして、各対象とのかかわり方について、発達に応じた段階的な指導を工夫し、課題解決のための話し合い活動を充実させてきた。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

ESD低学年部会とESD高学年部会による提案授業を研究協議会で検証し、実践を経て有効な手だてを共有してきた。また、日常の実践を記録し、中央廊下や各学年のラーニングセンターでの掲示を通して学びの共有をしてきた。今年度は、SDGsの観点から教育課程を見直し、SDGs実践計画表を作り、各学年のカリキュラムについて現職教育推進委員会で情報共有し、6年間を見通した教育活動となるよう留意した。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

校内においては、提案授業による実践の検証を行い、次年度に向けた取組につながる学校反省を職員全員で行っている。また、外部からの評価として学校評価アンケート（保護者・教職員・児童による評価）を毎年行っている。「自分の地域を知ることによって、かかわり合いの大切さを知ることができた」との保護者アンケート結果をいただいた。持続可能な社会の担い手となる子どもの育成のために、さらにSDGsの観点から教育課程を見直し、ESD活動が新たな意義や価値を見つげられる活動となるようにしていくことが課題である。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

3年生や5年生では地域の老人クラブの方々との交流において、昔のくらしや、遊び、米作りなどを教えていただき、活動の成果を交流会などで発表している。11月の「おがわっ子フェスティバル」では、学習活動の発表の場として全学年での取組をしている。行事を通して、互いに協力して一つの作品を創り上げる態度が育ち、自分で判断して実践できる子どもたちになってきている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）（200字程度）

2年生では、地域への目を広げる町探検としての地域交流、3年生では地域の独居老人との交流や昔の暮らしや遊びを知るための「東楽会」（地域の老人クラブ）との交流、4年生は地域の社会福祉協議会との連携による福祉についての学習活動の展開、5年生では、米作りを通して「東楽会」と交流し、人間の根源的なテーマ、動植物・人間の生命、生死の学習を行っている。6年間の子どもたちの学習活動のつながりを考え、各学年に応じて交流を続けている。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

6年生では、地域の人々や社会で活躍している人々を見つめながらさまざまな生き方を知り、自分も社会の一員として生きようとする実践力を育てるために、世界についても考えを広げ、一人一人興味のある国についてのインターネットを使った学習を進めた。その学習のまとめとしてアートマイルプロジェクトへの参加をし、インドネシアの学校と共同制作を行いながら相手国を理解し、交流を深め、互いのよさを認め合う作品を創ることができた。また、校長が県ユネスコスクール支援会議に参加、情報発信、情報共有活動を推進している。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

本校では、生活科と総合的な学習の時間を一体的な構造のものにとらえ、総合学習「生きる」として編成している。総合学習「生きる」では、学習課題の決定、学習活動の決定などを子どもに保障している。6年間のつながりを考えた学習活動により、高学年になるに従って、自己決定力や自己学習力を育てることにつながっている。また、他の教科学習においても、ESDで育てたい力を意識した授業展開をすることにより、課題解決に向けた計画を立てて学習を進め、他者への発信や働きかけのできる子どもたちになっている。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

多様な課題の解決に取り組むためには、学びを実生活の問題と適応させながら、自在に使いこなすことができるようにしなければならない。そこで、SDGsの観点で見直した総合学習「生きる」を軸とした教育課程の編成により、教科横断的な学習を進め、教科の学習をよりよい生活の創出に役立てることができるように実践を進めること、並びに新学習指導要領の主旨をふまえた、更なる実践的な態度の育成を図ることが課題である。

主体的な学びを次の学習につなげ、実生活に生かすことができるように、子ども同士や地域の人々との対話的な関わりを通じて自らの考えを深めることが重要であると考えている。そこで、教科で学習したことを生活の中で適応できたという経験が得られるように、子どもの思考の流れを重視した、横断的な教育課程を編成すること。また、思考力、判断力、表現力を高めるために、課題解決のための対話的な活動を充実させていくことを次年度の課題として取り組む予定である。